Ⅰ　調査の概要

１　調　査　の　目　的

この調査は，学校における幼児，児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

２　調　査　の　対　象

（１）　満５歳から17歳までの幼児，児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部（抽出調査）。

（２）　調査実施校数，調査対象者数及び抽出率は，次のとおりである。

区　分	調査実施校数	調査対象者数	
		発育状態	健康状態
幼稚園	1,645　（校）	72,380　（人）	92,519　（人）
小学校	2,820	270,720	1,323,537
中学校	1,880	225,600	850,518
高等学校	1,410	126,900	1,084,473
計	7,755	695,600	3,351,047
抽出率		全幼児，児童及び生徒の5.0％を抽出	全幼児，児童及び生徒の24.2％を抽出

（注）１．発育状態の調査は，調査実施校に在籍する幼児，児童及び生徒のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし，健康状態の調査は，調査実施校の在学者全員を対象としている。

２．中学校には中等教育学校の前期課程を，高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む（以下同じ）。

３　調　査　事　項

①　児童等の発育状態（身長，体重，座高）

②　児童等の健康状態（栄養状態，脊柱・胸郭の疾病・異常の有無，視力，聴力，眼の疾病・異常の有無，耳鼻咽頭疾患・皮膚疾患の有無，歯及び口腔（こうくう）の疾病・異常の有無，結核の有無及び結核に関する検診の結果，心臓の疾病・異常の有無，尿，寄生虫卵の有無，その他の疾病・異常の有無）

４　調査の周期・期日

①　周期：昭和23年度から毎年実施（昭和23年度から34年度までは，統計の名称を「学校衛生統計」として実施）。

②　期日：学校保健安全法による健康診断の結果に基づき，平成27年４月１日から６月30日の間に実施。

○　「むし歯（う歯）」（表９，図６～図８）

①　平成27年度の「むし歯」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は，幼稚園36.23％，小学校50.76％，中学校40.49％，高等学校52.49％となっており，全ての学校段階で前年度より減少しているおり、高等学校においては過去最低である。

②　「むし歯」の者の割合の推移（図６）をみると，幼稚園は昭和45年度，小学校，中学校及び高等学校では昭和50年代半ばにピークを迎え，その後は減少傾向にある。また，「未処置歯のある者」の割合の推移（図７）は，全ての学校段階で昭和23年度の調査開始以降，過去最低となっている。

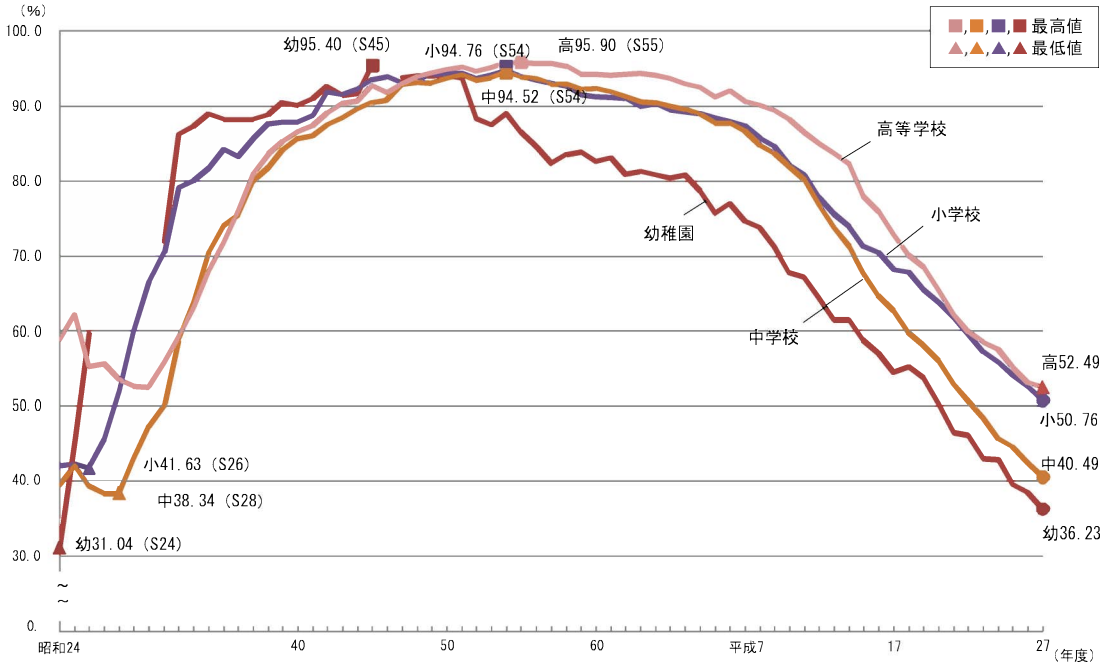
③　「むし歯」の者の割合を年齢別（図８）にみると，９歳が57.69％と最も高くなっている。また，処置完了者の割合は，８歳以降，未処置歯のある者の割合を上回っている。

表９　むし歯（う歯）の者の割合の推移

区分		昭和60年度	平成7	17	23	24	25	26	27
幼稚園	計	82.57	74.66	54.39	42.95	42.86	39.51	38.46	36.23
	処置完了者	23.44	27.77	21.32	16.91	17.31	16.01	15.68	15.12
	未処置歯のある者	59.13	46.88	33.07	26.04	25.55	23.50	22.78	21.11
小学校	計	91.36	87.33	68.19	57.20	55.76	54.14	52.54	50.76
	処置完了者	31.82	40.59	32.84	28.65	28.36	27.18	26.23	25.76
	未処置歯のある者	59.54	46.74	35.36	28.56	27.41	26.96	26.30	25.00
中学校	計	92.34	86.62	62.72	48.31	45.67	44.59	42.37	40.49
	処置完了者	41.19	46.23	34.73	26.75	25.55	24.92	23.83	22.38
	未処置歯のある者	51.15	40.39	27.99	21.56	20.12	19.66	18.54	18.11
高等学校	計	94.29	90.63	72.78	58.46	57.60	55.12	53.08	52.49
	処置完了者	42.17	48.70	42.54	32.24	32.34	31.45	30.45	29.91
	未処置歯のある者	52.12	41.92	30.23	26.22	25.26	23.67	22.63	22.58

（注）１．四捨五入しているため計と内訳が一致しない場合がある。以下の各表において同じ。
２．「むし歯（う歯）の者」は昭和24年度から調査を実施している。

図６　むし歯（う歯）の者の割合の推移



（注）幼稚園については，昭和27～30年度及び昭和46年度は調査していない。

図７　未処置歯のある者の割合の推移

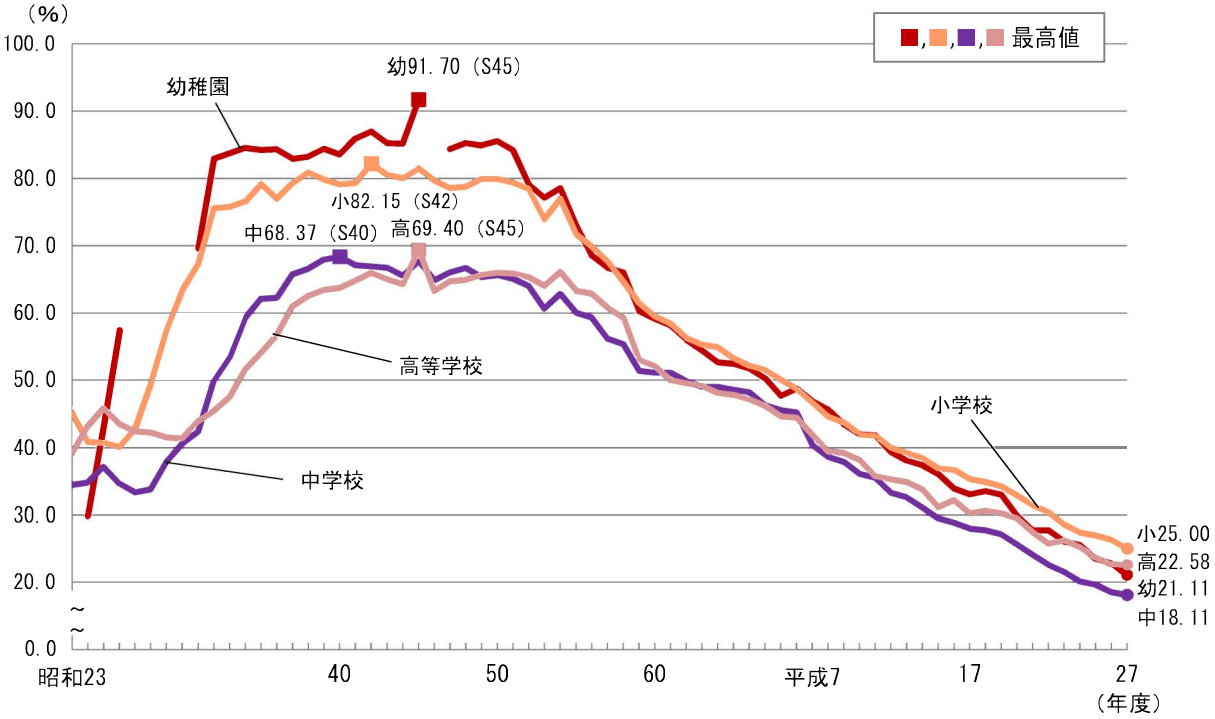
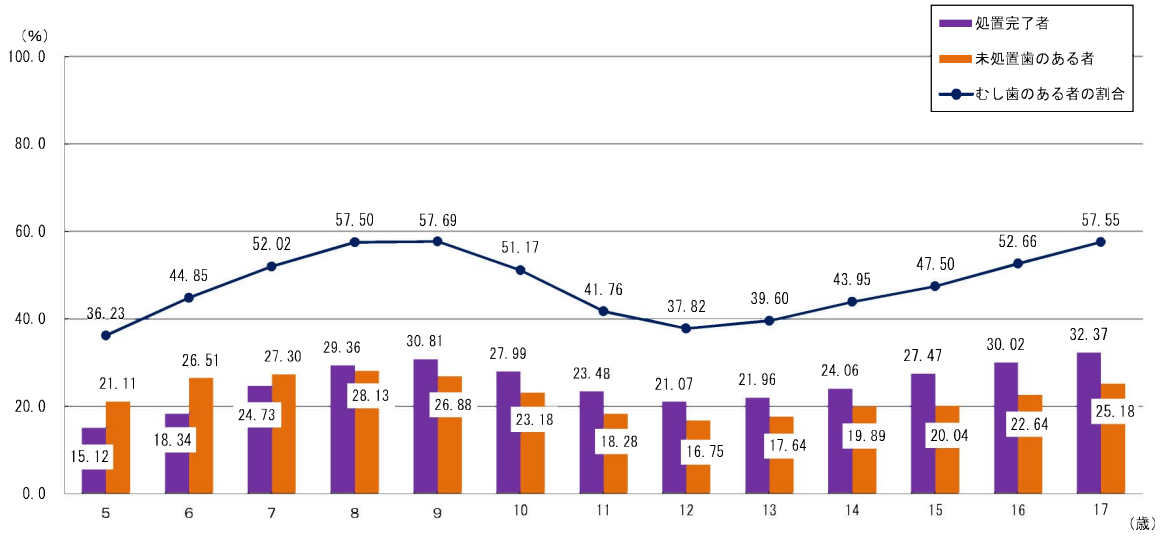


図８　年齢別　むし歯（う歯）の者の割合等



（注）10歳から12歳において割合が減少するのは，乳歯が生え替わることが影響していると考えられる。

○　「12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数」（表10，図９）

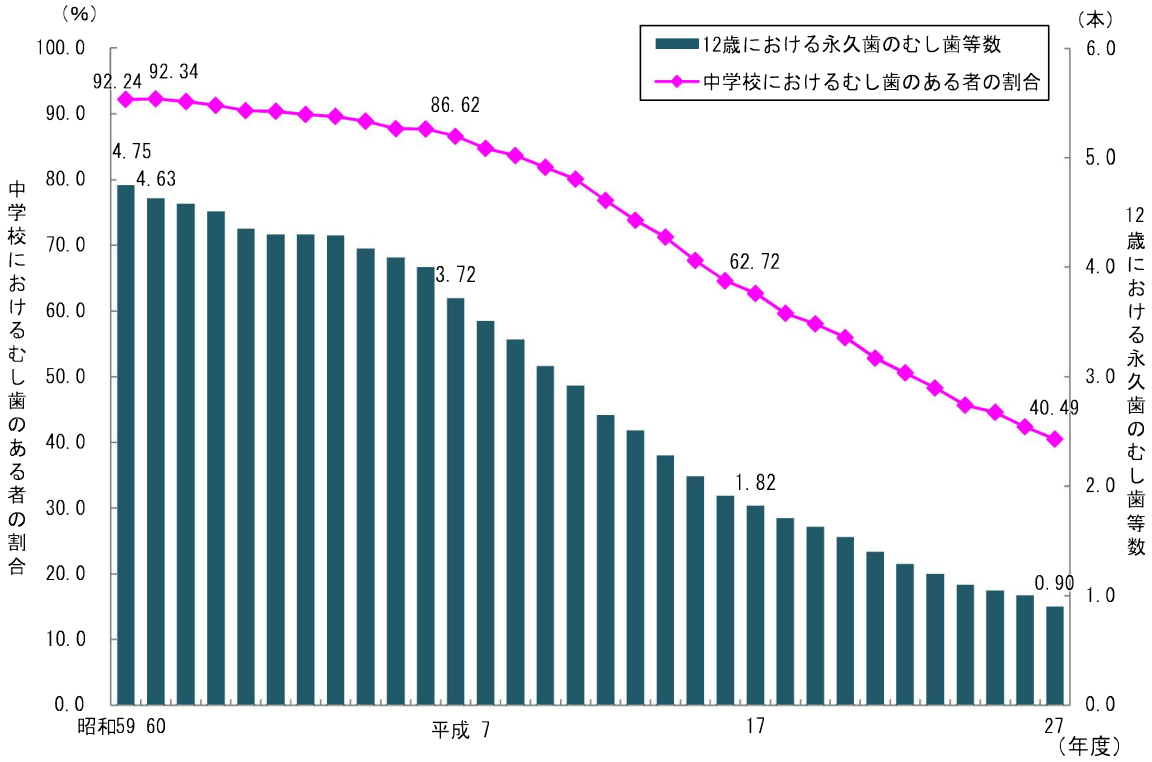
中学校１年（12歳）のみを調査対象としている永久歯の１人当たりの平均むし歯等数（喪失歯及び処置歯数を含む）は，前年度より0.10本減少して0.90本となり，昭和59年度の調査開始以降ほぼ毎年減少し，過去最低となっている。

表10　12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数

（本）

区　　分		昭和60年度	平成7	17	23	24	25	26	27
計		4.63	3.72	1.82	1.20	1.10	1.05	1.00	0.90
喪失歯数		0.05	0.05	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01
むし歯（う歯）	計	4.58	3.67	1.79	1.18	1.08	1.03	0.99	0.89
	処置歯数	3.26	2.69	1.19	0.76	0.69	0.66	0.64	0.55
	未処置歯数	1.32	0.98	0.60	0.41	0.39	0.37	0.35	0.34

図９　中学校におけるむし歯（う歯）の被患率等の推移



（注）「12歳における永久歯のむし歯等数」は，昭和59年度から調査を実施している。